

# 令和4年度事業報告

## 夙川さくら保育園

### 1. はじめに

年々、日本の総人口は、減少の一途を辿り、子どもの人数が減っています。政府による待機児童対策は進んでいるものの、保育園における利用者園児希望数は、増えている現実があります。その背景としては、共働きで、尚且つ、夫婦ともにフルタイムの勤務形態の増加により、保育園に預けたい世帯が多くなっていることがあげられます。しかし、この2～3年は、新型コロナウイルス感染症の流行により、保護者の在宅勤務や育児休暇を延長するご家庭が入園を辞退する動きがあり、0歳児クラスの辞退は、大きな影響を受けました。

本園は、環境に恵まれていることもあり、希望されるご家庭は多くいらっしゃいますが、保育園のニーズが高くても、勤務する職員がいなければ成り立ちません。そこで、心理的安全性の基、働きやすい職場作りを目指し、外部講師による「チームワーク保育」をテーマとした研修を全職員が受講しました。人権を意識した取り組みでは、虐待防止に関連づけ、人権を尊重した保育の目線合わせを行いました。そこから、職員間にも置き換え、認め合いの大切さや心地よく働ける環境を考えるきっかけへとつなげていきました。

仕事量の軽減では、ITC化による行事データの再活用、保護者や地域向けにネット配信と感染対策を踏まえた行事の見直しを行いました。安全危機管理の面では、安全点検の結果の周知、ヒヤリハットの洗い出し、過去の重大事故に対する意見交換など、リスクを確認しました。玄関の電子錠設置と玄関ホールの電灯数の増加は、保護者の方にとっても安心材料となっています。ソフト面ハード面の両方から、各職員がのびのびと保育ができる人的環境と安全で安心できる物的環境の整備に努めました。

西宮市では、2022年3月「西宮市幼児教育・保育ビジョン」として、子ども中心の幼児教育・保育がすべての施設で行われる目標を打ち出しました。この内容についても、全職員で確認し保育に活かしました。この中で、「社会全体として支えたい」という考えは、5カ年計画の中の医療的ケア児の受け入れにも連動します。地域の方を幅広く対象としておりましたが、お問い合わせはありませんでした。来年度も継続していきます。一時預かり事業では、利用者数の増加となり、大きな成果を上げることができた1年となりました。

### 2. 事業報告

#### 1) 施設を利用される保護者と手を携え、保育園の独自性を活かした施設運営を行います

(ア) 西宮市の待機児解消を受け、園全体として利用率117%、94名(定員80名)とします。

⇒8月までは、園児数が安定しませんでした。9月以降は117%の利用率を保持しまし

た。

<利用状況>

【定員 80名】

年齢/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均	前年度
0歳	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5.9	5.8
1・2歳	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28.0	27.9
3歳	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20.0	19.4
4・5歳	39	40	38	38	39	40	40	40	40	40	40	40	39.5	38.0
合計	92	94	92	92	93	94	94	94	94	94	94	94	93.4	91.3
利用率%	115	117	115	115	116	117	117	117	117	117	117	117	116.4	113.8

(イ) 3歳児クラスに生活加配の保育士と、5歳児クラスにあゆみ保育の加配保育士、各1名を配置し、きめ細かな支援を行います。

⇒アウトリーチでは、心理士も加わったことで、子どもの内面から子ども理解を学ぶ機会となり、援助の方法を深めることができました。

(ウ) 子どもたちが主体的に取り組める保育のあり方や環境を工夫していきます。

⇒異年齢保育の取り組みを年間実施したことで、挑戦してみようとする気持ちが育っています。

⇒子どもたちの年齢や発達、興味関心をキャッチし、生活や遊びの環境を試行錯誤し、整えたことで、園児の意欲が高まりました。

(エ) 保育園でのSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みを園全体で考えていきます。

⇒年間目標に沿った活動具体案を掲げ、保育につながる取り組みを楽しみながら展開しました。

(オ) 保育内容や子どもたちの姿を写真掲載（ドキュメンテーション）やホームページのブログを活用して、積極的に発信します。

⇒幼児クラスの毎日の保育内容をよい子ネットで保護者の方に配信し、行事实施後は、玄関にドキュメンテーションを掲示したことで、送迎時の親子の会話が膨らんでいました。

(カ) 管理栄養士と保育士が家庭と連携し、子どもたちに食への興味関心が持てる取り組みを行います。

⇒保護者と家庭での様子と園での様子を密に伝え合うとともに、保育士との連携も取りながら、子どもたちの実態に合わせた食事形態の提供をしました。

(キ) 保護者への連絡事項や緊急のお知らせは、よい子ネットの一斉送信メールにて、早急に伝え、情報の共有をしていきます。

⇒新型コロナウイルス感染症によるクラス閉鎖の対応、台風接近情報や不審者情報などを即座に伝えたことで、登降園時の注意事項として、各家庭と共有しました。

(ク) 年末保育の実施を安井保育園と共同で行います。

⇒園児4名の利用があり、保育を実施しました。

(ケ) 保育園が地域の中で根付くよう、育児相談等の子育て支援を実施します。

⇒地域向けの子育て行事や園庭開放、一時預かり利用の際に丁寧に取り組みました。

繰り返し、来園してくださる保護者から、気軽に話しかけていただくようになり、開かれた関係性を築いています。

## 2) 保育の質の向上のために

(ア) 保育園経営状況や事業計画・進捗状況等、意見を出し合い、全職員で、共通認識を持つ機会をつくります。

⇒全職員で、その都度、意見交換を行ったことで、課題を持って同じ方向性を意識し、進めることができました。

(イ) 保育内容と子どもの発達や育ちを考慮し、計画の立案、実践、振り返り、課題、修正実践の循環の仕組みを定着させていきます。

⇒総括では、振り返り中心の用紙に変更しました。経過だけでなく、全職員で課題を共有し、次年度につながるものとなり、引継ぎも明確になりました。

(ウ) 子どもが生活とあそびの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、友だちと一緒に、楽しく食べることを大切にします。

⇒発達に応じて、食具を使って食事をすることができるように保育士が手を添えたり、保育士も一緒に食べる機会を持ったことで、子どもたちの見本となるように配慮しました。

(エ) 外部講師による保育指導を中心に園内研修を継続的に実施していきます。

⇒園内研修では、発達に即した子どもの関わり方や遊びの展開方法を学び合い、自身の保育の振り返りと改善に努めました。

⇒フリー保育士が応援に入った際に、気づいた内容をその都度伝え合うことで、日々の保育の振り返りを行いました。

(オ) 3園での学びの中で、保育内容を吸収し合えるように、クラス別交流を積極的に行います。

⇒12月より実施しました。お互いの保育の認めから、参考になった内容の取り入れや自らの課題を実感できる研修となりました。

(カ) 職員自身の自主性を尊重することで、意欲を高め、広い視野を持って学べる研修体制を確立し、研修の学びを職員会議で発表し、全職員の学びにつなげます。

⇒研修の学びを職員会議で伝え合いをとおして、全職員が研修ポイントを整理する力をつけました。不参加だった研修内容も共有できたことは、他の年齢の発達や保育を理解することにつながりました。

⇒チームワーク研修では、認め合い、協力することの大切さを全職員が再認識する研修となりました。

(キ) 全職員が人事評価制度の等級別理念行動を基本とし、自分自身が課題を見つけ、目標設定をしていきます。

⇒各職員が課題を理解し、課題に向かって行動することで、職員ひとり一人が、働きやすい職場環境にも結び付けて、意識を向けていました。

⇒聞き取りや振り返りを行い、各自の進捗状況を確認し、具体策を検討することで、期限内に目標をクリアしようとする職員の姿がありました。

(ク) フリー保育士を入れ、応援体制を組み、事務時間の保障をして事務の軽減につなげます。

⇒担任を補助し、応援に入る体制を整え、休憩時間の保障と事務の軽減に努めました。

(ケ) 保育園の毎日の生活の中から、有効的な資源の活用法など、SDGsの考えを取り入れることで、全職員の日線を合わせていきます。

⇒園児にも身近に感じられるような、節水・節電を柱に意識的に取り組みました。

(コ) 子どもの人権を尊重し、発達と特性にあった適切な援助をすることで、心情・意欲・態度を育てていきます。

⇒各年齢の研修の受講や公開保育で意見交換するなど、子どもの発達と特性を知り、適切な援助を行えるように、学びを深めることを大切にしました。

(サ) 虐待やパワーハラスメント防止に向け、マニュアルに基づく研修やアンケートを年2回実施し、虐待やパワーハラスメント防止に努めます。

⇒定期的に、全職員に不適切な保育についてのアンケートを行い、どのような対応が虐待になるのかを具体的に確認することで、職員が意識して保育にあたり、虐待やパワーハラスメントの防止に努め、自らの言動を見直す機会を持ちました。

(シ) 医療的ケア児への対応について、法人内施設や職員と一緒に保育園の役割などの意見交換をしていきます。

⇒研修には参加しましたが、感染症拡大を懸念し、対面での研修は行いませんでした。

(ス) 認定こども園への移行を視野に入れ、さらに理解を深め、幼稚園教諭の免許取得と更新をすすめていきます。

⇒幼稚園教諭の免許状を正規職員2名が取得いたしました。

### 3) 地域子育て支援及び地域との交流

(ア) 地域の子育て事業として、管理栄養士や保育士が専門性を生かして、育児講座や園庭開放などを企画し地域に開かれた保育園を目指します。

⇒あいあい広場での離乳食講座2回、保育園での離乳食講座2回、感染症対策を行い実施しました。保育園で使用している食器・食具の紹介を間近で行ったことで、管理栄養士との距離を縮め、親しみやすい関係を意識しました。

⇒園庭開放時も保育士の声かけや遊びの働きかけが実り、食や育児に関する質問や悩みごとを相談する場となりました。

〈 子育て支援事業 〉

内容/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
地域交流			1			1						1	3回
育児相談		5	18	3	4	7			3	6	3	6	55件
体験保育													実施なし
短期体験保育				12		4			4				20名
子育て教室				12		8		16	12	14			62名

育児講座			56	30									86名
子育て情報誌	200		200		200		200		200		200		1200部
園庭開放	0	5	32	75	25	64	8	6	26	31	38	41	351名
よい子ネット配信	11	6	6	8	23	8	6	5	4	3	3	3	86回
子ども図書館		1	4	5	2	5	6	5	5	7	2	3	45回

(イ) 法人の高齢者施設（にしのみや苑）との異世代交流や児童発達支援センター（北山学園）との同年齢の子どもたちとの交流を計画的に取り組みます。

⇒秋以降の高齢者施設との交流では、お手玉と折り紙で作ったコマをいただきました。子どもたちも、伝承あそびを楽しんでいた時期と重なり、さらにあそびが広がりました。

⇒北山学園との交流は、要マスクの生活が続いたこともあり、交流は難しく実施には至っていません。

(ウ) 近隣の方々と地域合同避難訓練などをおして、緊急時の協力体制が取れるように、日頃からの関係を大切にします。

⇒11月に自治会の方に参加していただきました。子どもたちに自治会の方を紹介したことで、顔を知っていただく機会となり、園外で挨拶を交わす機会が増えています。

(エ) 青少年愛護協議会に参加し、他団体と情報を共有することで、子育て支援の機能が果たせるよう関係を築きます。

⇒近隣小学校との災害時の協力体制の依頼を継続したことは、地域の中で安心感を持って過ごすことにつながっています。

(オ) 感染症の状況を踏まえ子どもたちとのふれあいや環境整備などを目的とする、学生やインターンシップを募ります。

⇒大手前大学のボランティアの学生に、手話を教えていただきました。

インターンシップの学生には、環境整備と制作準備を中心に、保育現場を体験したことで、保育士の仕事内容の奥深さを実感していました。

(カ) 保育の専門理論や知識・技術の習得をねらいとする実習生や学校授業での職場体験などの感染対策をとり、次世代の保育教諭、保育士の育成を支援します。

⇒養成校に事前の健康チェックなどの協力を依頼し、実習生を受け入れました。

(キ) 地域の小学校との情報交換を通して、つながることで、円滑に就学できる体制作りを行います。

⇒5歳児は、地域の小学校と手紙の交換をして情報の共有を図りました。また、小学校にも出向き授業の様子を見学できたことは、就学に向け、大きな期待が膨らみました。

⇒年長児担任が、研修に参加し、保育環境や保育者の関わり方などについて、学びを深めました。

(ク) 園周辺や近隣の公園の清掃活動を継続的に実施します。

⇒年に数回、園周辺の清掃活動を継続し実施しました。園外先でもゴミを見つけると率先して拾う子どもたちの姿に成長しています。

#### 4) 安心・安全・快適な環境づくり

(ア) 新型コロナウイルス感染症など、感染拡大防止策を行い、保育園での生活が快適で、安全に安心して送れるよう、職員で共有し、環境を整えていきます。

⇒管理栄養士による手洗い指導も定着し子どもたちの手洗い意識も高くなっています。

(イ) 毎月、ねらいを持ち、避難訓練を計画し、消火訓練・不審者対策・地震津波対応・台風等、あらゆる場面を想定した実効的な訓練や防災・減災教育を実施します。

⇒年間を通して、月1回の避難訓練の実施、大規模災害を想定した机上の話し合いを小グループで場面ごとに意見交換し、全体の流れをつかみました。

⇒防災頭巾を幼児用準備し、火事・地震の訓練時に着用しました。

(ウ) 安全で快適な環境を常に心がけるために、毎月、全職員で安全点検を行い、修理が必要な箇所については、早急に対応し、安全管理をします。

⇒月1回の安全点検管理を徹底と、危険箇所の全職員への周知と情報の共有をし、事故防止に努めました。

(エ) 定期的に各種マニュアル（衛生的な手洗い・乳幼児突然死症候群（SIDS）・アレルギー除去対応・誤食・気道異物除去法・AEDの使い方・心肺蘇生法・感染症対策・エビペンの使い方など）の研修を積み重ねます。

⇒前期は、計画通りに研修を行い、後期は、定着しづらい研修やマニュアルの改定があった内容を中心に、繰り返し実施しました。

(オ) 事故報告書・ヒヤリハットを活用し、事例を分析して、再発防止に努めます。

⇒各職員による週1つ以上ヒヤリハットをもとに、毎月、事例検討会を開催しました。同じような事例を繰り返さないよう、注意喚起を行いました。危険な行動を見逃さないための着目点などの研修を重ねました。

(カ) ハサップに基づいた安心・安全な食事の提供と食育の取り組みを栄養士と保育士が意見を出し合い、取り組んでいきます。

⇒給食室でのハサップの概念は定着したように感じます。食材も検収や記録・温度管理等のタイミングも管理栄養士と調理員で話し合い、その都度、解決しています。

⇒保育現場では、感染症対策を基本の手洗いに立ち返り、チェッカーを使用し、自らの手洗いを見直す取り組みを定期的に行いました。

⇒報道における食に関する事故については、本園に置き換え対策を話し合い、事故防止に努めています。

(キ) 設備・環境整備

・3階屋上テラスの人工芝の取り換え工事を行います。

⇒10月に完了し、安全に保育を実施しています。

・玄関の電子錠付き扉に取り替えます。

⇒6月に取り換えを済ませ、防犯対策となっています。

・保育室内にピクチャーレールを取り付けます。

⇒12月に取り付けを完了し、制作物を飾り保育環境を整えています。

・受水槽の修理を行います。

⇒8月に実施し、問題なく稼働しています。

・ 公用車を安井保育園と共同で新規契約します。

⇒11月に安井保育園と共同でリース契約をしました。

## 5) 一時預かり事業

(ア) 一時預かり事業は保育士を2名配置し、年間利用者数1,500名以上を目標とします。

⇒丁寧な保護者対応とキャンセル発生時の対応成果が実り、年間利用人数、1600名を受け入れました。

(イ) 利用される時間帯に柔軟性を持たせることで、安心して預けていただける対応をしていきます。

⇒各ご家庭の状況を踏まえ、利用回数や時間延長など、臨機応変に対応しました。

(ウ) 潜在的に子育て不安を抱えている保護者を把握し、心に寄り添う中で、必要性や緊急性がある場合は、他の関係機関とつなげます。

⇒不安も持つ保護者には、何に不安を持っているか傾聴し、園での子どもの様子も伝達し、安心して預けていただける環境を整えました。

⇒トイレトレーニング、言葉の発達、食事面、イヤイヤ期などで保護者が悩んでいることなど登降園時に話を聞き、アドバイスの実施と積極的に他の機関につなげるようにしました。

(エ) 異年齢保育の質の向上や保護者対応の研修に参加し、学びを深めていきます。

⇒保護者支援や障がい児保育の研修などに参加し、学びを保育で実践し、他クラスの担任にも伝え、学びを広めました。

(オ) その日利用される子どもたちの発達に合った玩具や環境を整えます。

⇒それぞれの年齢に合わせて、のりやハサミなどの道具を使っての制作などを行いました。また、保護者の方にもなじみのあるパズル、かるたなど子どもの発達や時期を見ながら提供し、さまざまな遊びを取り入れていきました。

### <一時預かり保育 利用状況>

年齢/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	昨年度 合計
0歳児	1	5	9	4	9	14	16	16	15	17	19	25	150	168
1歳児	62	72	89	59	41	77	81	82	66	74	78	81	862	376
2歳児	23	42	52	38	29	51	46	46	51	34	51	50	513	578
3～5歳児	20	7	5	18	42	8	5	4	17	12	1	25	164	150
合計	106	126	155	119	121	150	148	148	149	137	149	181	1689	1272